

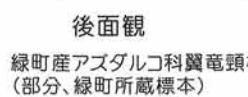
化石大発見3連発!!! -嵐のような5カ月間-



側面観



背面観



後面観

緑町産アズダルコ科翼竜頭椎
(部分、緑町所蔵標本)

5cm

翼竜!

はじまりは4月26日のことでした。緑町の化石担当者から、「昨日、野田さんが緑町の淡路ふれあい公園内の残土置き場で骨の化石らしきものを発見されました。見ていただけますか?」という電話がありました。野田富士樹さんは、緑町の化石関連事業の中で、

熱心に協力しておられるボランティアの方です。

翌27日の昼頃、その化石は送られてきました。取り出してみると直径10cm程度の丸い形をした和泉層群の黒色泥岩から、直径2cm程度の棒状のものが飛び出していました。私が少し見ただけではよくわからないので、同僚で脊椎動物化石の専門家である三枝さんに見てもらいました。三枝さんはしばらく見回して、「翼竜だ!」と言いました。骨が中空であることとその大きさが根拠です。つまり、飛ぶために軽量化された骨を持っていることと骨の大きさから、この時代(中生代白亜紀)の空を飛ぶ

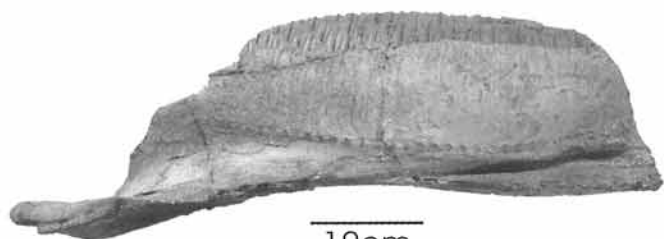
生物の中で翼竜に絞られるだろうということでした。ルーペでよく見てみると一部海綿質の部分も見えます。なるほど、これは間違いなく骨だ。これまで和泉層群からは、カメ、モササウルス、クビナガリュウなどの骨や歯は見つかっています。しかし、翼竜は初めてのほうです。すごい!本当に翼竜ならば、5年前に三枝さんが神戸市北区で発見したザイサンアミノドン(サイの仲間)以来の大発見です。

早速慎重なクリーニング作業がはじめられ、5月のはじめ頃には翼竜の中でもアズダルコ科らしいことがわかってきました。アズダルコ科は翼開長が12mもあるケツアルコアトルスを含むグループです。これはますます面白くなってきました。5月7日、私は緑町キャラバンでの化石展示の設営に出かけ、終わった後で、緑町側にアズダルコ科翼竜の可能性が出てきたことをお知らせし、今後の発表や調査研究の進め方について協議しました。そして、6月中にはクリーニングが終了し、大変保存の良いアズダルコ科の頸椎(首の骨)の一部で、この仲間の形態に関して貴重な知見の得られるものであることが分かりました。

恐竜!!

緑町から帰った翌5月8日、久しぶりにメールをチェックしました。5月5日は休み、6日、7日は緑町キャラバンの関係で忙しかったのです。たまっているメールの中に、近畿地学会の岸本眞五さんからの「淡路で恐竜を発見しました」という5日付けのメールがありました。驚いて読んでみると、カモノハシ竜とのこと。添付してあった写真を見てびっくり仰天!思わず声を出してしまいました。なんと、ずらりと歯が並んだ大変保存の良い顎の骨だったので。最近では日本国内でも恐竜の化石は色々なところから発見されるようになりました。しかし、多くの場合は歯が1本だけという程度のもので。淡路の和泉層群からいずれば、と思っただけでしたが、まさかこれほどのものがいきなり見つかるとは……。心底驚きました。

5月11日には、三枝さんと共に岸本さんのお宅を訪れ、化石を見せていただきました。顎の骨(歯骨)以外にも首の骨(頸椎)や肩の骨(烏口骨)などもあり、保存の良さに改めて驚かされました。そして5月中旬に2回、近畿地学会とひととはくの関係者が合同で、現地の発掘調査を行い、頸椎や、遊離した歯などを採集しました。7月には、ハドロサ



10cm

洲本産ランベオサウルス亜科恐竜歯骨
(舌側、岸本眞五氏所蔵標本)



5cm



5cm

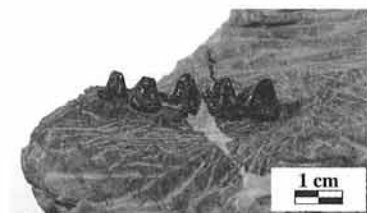


5cm

三田市産炭獣(アントラコテリウム類)化石
(下顎類歯列および下顎骨)



1cm



1cm

三田市産バク上科哺乳類化石
(下顎第一〜第三大臼歯)

ウルス科恐竜の専門家である鈴木大輔氏(札幌医科大学)に岸本さんのお宅で標本の検討していただき、今回の恐竜はハドロサウルス科の中でもランベオサウルス亜科に属することが分かりました。

哺乳類!!!

4月8日、湊川高校の木村一成さんから、地質調査中に神戸・三田IC近くの道路工事現場で足跡の化石らしいものを発見したとの通報があり、数名の研究員が現地で調査を行いました。その後、三枝さんによってこの露頭の調査が継続的に行われ、京都教育大の田中里志さんや足跡化石に詳しい岡村喜明さん、琵琶湖博物館の高橋啓一さんらにも協力を求め検討した結果、これは大型哺乳類の足跡であろうとの結論に達しました。

5月24日、三枝さんは足跡化石の調査の折りに哺乳類化石を採集したのですが、それは、クリーニングの結果、炭獣類(アントラコテリウム科)の下顎の化石であることが分かりました。さらに、3月に同じ現場で三枝さんが採集していた化石を同僚の松原さんがクリーニングしたところ、哺乳類の歯であることが分かり、三枝さんによりバク上科と同定されました。

博物館の近くからザイサンアミノドンに続いて、炭獣類、バク上科、足跡化石が見つかったのです。博物館周辺の神戸層群は、日本全体でも大変珍しいおよそ3700万年前の古第三紀哺乳類化石の一大産地であり、この時代の日本の哺乳動物群を解明する上で非常に重要な産地となったのです。

発表、その後

マスコミ向けの発表が、7月半ばから8月末にかけて、翼竜、恐竜、哺乳類の順に行われ、館内では恐竜と翼竜化石を展示した「速報 淡路の恐竜化石展」が8月7日から9月5日まで開かれました。この展示は好評を博し、昨年に比べて大幅に来館者数が増加しました。

8月から9月にかけて、翼竜化石の続きを現地で探すイベントが、多くのボランティアの協力を頂いて緑町で5回行われましたが、残念ながら発見することはできませんでした。恐竜は海成層である和泉層群から高い頻度で産出することは期待できませんが、これからも探索を続けたいと考えています。哺乳類化石の方は、今後さらに化石が発見される可能性が高いので、時間をかけて継続的に発掘を行うことが検討されています。この5カ月間ひととはくの化石関係者は大変忙しい思いをしたのですが、まだしばらくは続きそうな気配です。今回の3つの発見で兵庫県は一躍全国的な注目を浴びることになりました。地元で重要な化石が発見されたということで、県民のみならず、中でも子どもたちに、生物の持つ長い歴史や、ひいては自然そのものに関心を持っていただくきっかけとなればこれにまさる喜びはありません。

(自然環境評価研究部、埋蔵自然遺産研究グループ 古谷 裕)

編集後記:

来年1月で大震災から10年がたちますが、その後の10年を振り返るため、「企画展大震災を越えて」が本館で開催されます。本号はその特集としました。また、今年話題になった恐竜化石などの発見に関する顛末も載せました。こうした良い意味であつと驚く話題がどんどん出てきて博物館がさらに楽しい場所になることを願っています。
(シンクタンク事業室 三枝春生)

人と自然の博物館ニュース
「ハーモニー」No.47

平成16年11月20日
兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL (079) 559-2001 (代表)
FAX (079) 559-2007

博物館ではインターネット上でも情報を提供しています。
URL <http://hitohaku.jp/>

ハーモニーのバックナンバーは博物館のホームページ
http://hitohaku.jp/publications_index.html
でご覧いただけます。